

# 2008年度 TOYOTA

## **TOYOTA BP Racing Team**



### 全日本カート選手権 KF1シリーズ 参戦報告書

第1戦/第2戦 ツインリンクもてぎ北ショートコース  
(’08年4月13日)

TOYOTA



NGK

BRIDGESTONE

birel

DID  
Racing Chain  
Powered by Technology

Arai  
HELMET

TAKAGI  
PLANNING

YAMAHA

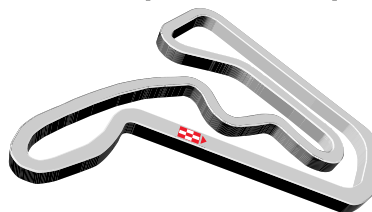
# 全日本カート選手権KF1シリーズ第1戦/第2戦もてぎ大会

開催日：4月12～13日

開催場所：栃木県・ツインリンクもてぎ北ショートコース

天候：曇り一時雨（気温10℃）

路面状況：ドライ（路面温度12℃）



もてぎ北ショートコース

高速セクションとインフィールドのテクニカルセクションがバランス良く配置されたテクニカルコース。

全長：982m 幅員：8～14m  
最大直線長：142m

今季から国際レースと同じKF1クラスが導入され、それにともないシリーズも東西一本化、レース数も4大会7レースとなり、1大会ごとの重要性も増している。TOYOTA BPレーシングチームは、昨年引き続き2年目となる大谷涼、そしてジュニア選手権からステップアップした勝田貴元と、2名の若いドライバーを擁し、最高峰シリーズのチャンピオン獲得をめざして参戦する。

開幕戦は、時折雨が降り気温も低い難しいコンディションでのレースとなった。

## 大谷 涼



### 第1戦

#### ■タイムトライアル（36.652/6位）

降り出しそうな雨を見ながら、早めにコースインしタイムアタックを行う。トータル10周し7周目にベストタイムをマーク。6番グリッドから予選ヒートに臨むこととなる。

#### ■予選ヒート（16周/6位）

ダミーグリッド上ではやや雨がつよくなるが、コースインと同時に雨もやみ、全車スリックタイヤ。しかし、滑りやすい路面からスタート直後に押し出され、大きくポジションを落としてしまう。しかし、そこから冷静にペースアップし順位を挽回すると、最後は6番手まで上がってチェッカーを受けた。

#### ■決勝ヒート（28周/4位）

決勝ではスタートでポジションキープ。その後、ただひとり36秒台に入れトップグループを追う。8周目には3番手の真後ろまで接近したものの、かわすまでには至らず、逆に後半に掛けてややペースが落ちてしまう。それでも、最後までポジションを守りきり、レース中のファステストラップも記録して4位入賞を果たした。

### 第2戦

#### ■タイムトライアル（37.034/11位）

変化する路面コンディションとうまくマッチングせず、タイムを上げることができないまま11番手で終了。予選での挽回をめざす。

#### ■予選ヒート（16周/11位）

第1戦予選と同様に、スタート直後のアクシデントで最後までポジションダウン。そこから力強い追い上げを見せ、終盤には11番手まで復帰。そのままチェッカーを受けた。

#### ■決勝ヒート（28周/2位）

スタート前にグリッド前列の選手がエンジントラブルでリタイアしたこともあり、スタートで一気に5番手までジャンプアップ。4周目には4番手、8周目には3番手とポジションを上げていく。さらに15周目には2番手まで浮上すると、トップの勝田選手に接近。しかし、終盤に再び雨が降り始めたことから、ポジションキープに切り替え2位でフィニッシュ。勝田選手との1-2フィニッシュを決めた。なお、この第2戦でも決勝ファステストラップを獲得している。

TOYOTA



NGK

BRIDGESTONE

birel

D.I.D.  
Racing Chain  
Powered by Technology

Arai  
HELMET

TAKAGI  
PLANNING

YAMAHA



# 勝田貴元



## 第1戦

### ■タイムトライアル (36.691/7位)

初のハイグリップタイヤでのレースとなる勝田。うっすらと濡れた難しい路面コンディションだったが、積極的に周回し、トップから0.179秒差の7位となる。

### ■予選ヒート (16周/DNF)

決勝へ向け、上位グリッド進出を狙いたい予選ヒート。しかし、オープニングラップの3コーナー立ち上がりで他車と接触し、その衝撃でマシントラブルもあり、このヒートは早々にリタイヤとなる。

### ■決勝ヒート (28周/DNF)

25番手スタートと厳しいレースとなった第1戦。追い上げを図りたい勝田だったが、またもオープニングラップにアクシデントが。S字で直前のマシンがスピンしたため避けきれず衝突。それによりホイールが割れてしまったためピットへと戻り、そのままリタイヤ。苦いデビューレースとなった。

## 第2戦

### ■タイムトライアル (36.808/3位)

昼のインターバルにメカニックがマシンを修復。無事第2戦にも出走を果たした勝田は、公式練習から好タイムをマーク。TTでもトップと0.044秒差の3番手タイムをマークする。

### ■予選ヒート (16周/1位)

スタートはポジションキープのまま3番手でオープニングラップを終えた予選ヒート。5周目のヘアピンで2番手に上がると、8周目にはトップに浮上。その後、幾度となくポジションの入れ替えはあったものの、最終ラップにまたもトップに立ちそのままチェッカー。決勝のPPを獲得した。

### ■決勝ヒート (28周/1位)

ポールスタートの決勝では、無難にホールショットを獲得。トップグループの中でも落ち着いた走りポジションをキープしていく。終盤にはいると、後続のポジション争いの間にリードを約1秒にまで広げる。しかし、終盤チームメイトの大谷選手が接近。それでもコンマ5秒ほどのリードをキープしてチェッカー。開幕イベントで初優勝を飾った。

### ■大谷 涼

第1レースではTTでは問題ない位置にいましたが、予選、決勝はプッシングされるなどクラッシュばかりで、止まっては追いつけるパターンになってしまいました。

第2レースでも予選で押し出されてしまいました。決勝はスタートで前がいなくなったので、ジャンプアップできました。トップに追いついているときは、追いつき抜ける手応えはあったのですが、終盤雨が降ってきてしまい。無茶はできないと冷静になりました。冷静になりすぎ、ペースが落ちすぎたかもしれませんが、止まってしまうより良かったと思いますし、1-2フィニッシュに関してはすごく満足しています。次は自分が前で達成したいです。

### ■勝田貴元

第1戦はマシンの感じは良かったのですが、TTで思うようにタイムを上げられず、予選ではオープニングラップに接触しチェーンが外れてしまいました。決勝ではS字で前のカートがスピンし当たってしまい、そのときにシャフトが曲がり、ホイールが割れてしまいました。

第2レースでは落ち着いて予選を戦えたのが良かったです。決勝は自分のペースで全力で走ろうと思い、抜かれたら切り替えようと思っていました。

マシンを修復してくれたチームスタッフやスポンサー、応援してくれた人達に感謝します。次も気を引き締めてがんばりたい。

TOYOTA



NGK

BRIDGESTONE

birel

DID  
Racing Chain  
Powered by Technology

Arai  
HELMET

TAKAGI  
PLANNING

YAMAHA

## 高木政巳監督による総括

開幕戦で1-2フィニッシュできたのは非常に素晴らしい結果だった。今年一年通じて、予定が立てられるレースとなった。初戦が大切ななかで1レースとれたし、本人たちにとっては大きな自信になっただろうし、一年戦っていける。路面が変化していく難しいコンディションの中で、本人とメカニックのコミュニケーションがしっかりとれ、決勝へのシャシーセットが決められたのが勝因だ。内容的にはパーフェクトなレースができた。

勝田にとっては、初レースでトップキープもできたし、本人、マシンそれぞれがパーフェクトじゃないとできなかったことだろう。

大谷も11番手スタートから2位をとれたことは本人もすごく喜んでいる。

チーム内でライバルになってお互いに切磋琢磨しながら成長していけるいいパターンができた。

## 全日本カート選手権KF1シリーズ第1戦/第2戦もてぎ大会

### 第1戦

Pos.	No.	Driver	Team	Frame	Engine	Tire	Q.F.	予選
1	1	佐々木大樹	チームウルフ	KOSMIC	VORTEX	BS	36.651 5	3
2	16	前原佳明	チームエッフェガーラ	BIREL	TM	BS	37.146 23	22
3	7	井上寛之	TONYKART R.T.J	TONYKART	VORTEX	BS	36.699 8	2
4	4	大谷 涼	TOYOTA BP RT	BIREL	IAME	BS	36.652 6	6
5	23	高星明誠	INTREPID JAPAN	INTREPID	VORTEX	BS	36.816 13	23
6	27	佐藤奨二	FA-KART RT	FA KART	VORTEX	BS	36.545 2	4
7	28	中村 純	FA-KART RT	FA KART	VORTEX	BS	36.867 14	9
8	14	綿谷浩明	SPS川口	TONYKART	VORTEX	BS	37.220 25	11
9	25	五十嵐勇大	ROBOT RACING	TONYKART	VORTEX	BS	37.007 19	13
10	22	TIN SRITRAI	ビレルパシフィックMTS	BIREL	IAME	BS	36.794 11	7
:								
DNF	30	勝田貴元	TOYOTA BP RT	BIREL	IAME	BS	36.691 7	25

### 第2戦

Pos.	No.	Driver	Team	Frame	Engine	Tire	Q.F.	予選
1	30	勝田貴元	TOYOTA BP RT	BIREL	IAME	BS	36.808 3	1
2	4	大谷 涼	TOYOTA BP RT	BIREL	IAME	BS	37.034 11	11
3	16	前原佳明	チームエッフェガーラ	BIREL	TM	BS	36.980 9	5
4	23	高星明誠	INTREPID JAPAN	INTREPID	VORTEX	BS	37.009 10	8
5	1	佐々木大樹	チームウルフ	KOSMIC	VORTEX	BS	36.764 1	3
6	7	井上寛之	TONYKART R.T.J	TONYKART	VORTEX	BS	37.103 14	26
7	11	川口慶大	マสดレーシングRP	BIREL	VORTEX	DL	37.067 13	22
8	22	TIN SRITRAI	ビレルパシフィックMTS	BIREL	IAME	BS	36.880 6	6
9	19	松崎俊祐	INTREPID JAPAN	INTREPID	VORTEX	BS	37.212 20	25
10	10	小林弘直	KOSMIC RTJ	KOSMIC	VORTEX	DL	D.N.S 27	19

### 総合ポイントランキング

Pos.	Driver	累計	有効
1	佐々木大樹	28	28
2	前原佳明	27	27
3	大谷 涼	25	25
4	勝田貴元	20	20
5	井上寛之	18	18
6	高星明誠	18	18
7	佐藤奨二	6	6
8	中村 純	4	4
9	TIN SRITRAI	4	4
10	川口慶大	4	4

### 参戦予定

#### 全日本カート選手権KF1シリーズ

第1戦/第2戦	4月13日	もてぎ
第3戦/第4戦	7月27日	茂原(千葉県)
第5戦/第6戦	9月7日	瑞浪(岐阜県)
第7戦	10月26日	鈴鹿(三重県)
ワールドカップ	5月25日	鈴鹿(三重県)
SL全国大会	10月4~5日	琵琶湖SL(滋賀県)

## 2008年度チーム体制



Driver: 大谷 涼



Driver: 勝田貴元

トップワークスチームとして完成された高木政巳監督以下の強力な体制を継続し、JAF全日本カート選手権KF1と、CIK-FIAワールドカップカートレースKF2クラスに参戦します。

チーム代表

高木虎之介

監督

高木政巳(元スーパーカートチャンピオン)

助監督兼チーフエンジニア

北條 裕(ドリームファクトリー)

メカニック

岡地友成(大谷涼担当)

高井美豪(勝田貴元担当)

アドバイザー

片岡龍也(スーパーGTドライバー)

TOYOTA



NGK

BRIDGESTONE

birel

DID  
Racing Chain  
Powered by Technology

Arai  
HELMET

TAKAGI  
PLANNING

YAMAHA